

新体操ジュニアクラブへの加入動機と効果に関する一考察 —クラブ所属員の親の意識を中心に—

丹羽 涼子 丸山 富雄 仲野 隆士

キーワード：新体操, ジュニアクラブ, 加入動機, 効果意識

A study on parents' motivation and perception of the effects of sending their children to rhythmic gymnastics junior clubs — Focused on parents' intentions towards the clubs —

Ryoko Niwa Tomio Maruyama Takashi Nakano

Abstract

This study was intended to investigate motivations and expectations for affiliating junior clubs which consist the basis of rhythmic gymnastics in Japan and evaluations of desired outcomes through the perceptions of parents who send their children to those clubs. Results obtained might be used as a basic material for discussing future strategy of sound development of rhythmic gymnastics junior clubs(RGJC).

Five clubs were arbitrarily selected in terms of clubs which aimed at training competitive gymnasts (1), practicing basic skills for contests (2), and presenting skills at general events (3). The total 315 questionnaires, which consisted of 6 items on parents' experiences and opinion, 58 items on motivation, 59 items on perception of effects and outcomes, and some others, were mailed to selected clubs, and distributed to parents and collected through each club, and 276 (87%) was returned. The data obtained were processed through simple calculation, cross calculation with age, and factor analysis so as to clarify the structure among motivations and perceptions of outcomes.

About 50% of the children were under 3 graders, 60% of the parents were at their 30s and 70% participated sports and dance in their school and college years, and almost all families were positive towards RGJC. The most prominent motive was children's desire (92.1%). Parents' expectations were acquisition of concentration(91.6%), good manners(89.9%), active and pleasant children(89.9%), willing and intent children (88.1%), and endurance(87.7%). Interrelationships among factors and clusters were cross analyzed. It was concluded that aims and effects of RGJC were not conceived as preparation for top athletes but as fostering children's manners and characters as well as enjoying practices.

Key Words: rhythmic gymnastics junior club motivation and intention
perceived outcomes

I. 緒言

新体操競技の世界では、現在、ルールの変更に伴い人並み以上の柔軟性等の身体基礎能力が要求されてきているため、能力が無限大に伸びるジュニア期の選手育成と強化に力が入られている。現在、新体操クラブ連盟に加入登録しているクラブは、約320クラブ（選手は5633名）であり、その数は年々増える傾向にある。一方競技会も年代別に様々なレベルの大会が開催されている。将来の競技選手を担うという観点からも、一連の協議会は重要な役割を果たしてきたといえる。特に、ジュニアクラブが増えてきたことと、チャイルド育成として新たな競技会が作られ開催されていることが日本における新体操の特徴である。最近、競技育成プログラム策定のためのモデル事業が実施されつつあり、大いに注目を集めている。その目的は、10-12歳を対象に生まれ持った柔軟性や潜在的なものを重視し、プロポーションや柔軟性の高い選手を発掘し計画的に選手強化をしようとするものである。

これまでの新体操に関する研究は、競技レベルを世界のトップに近づけるという課題もあり、競技に関する研究が多くなされている。10点満点に仕上げていく為には、あらゆる難度をこなせる能力と、独創性豊かな演技に作り上げることが重要であると指摘されている（小林1992）。また、選手の能力が優れていても各種目の採点規則に従って演技内容を構成しなければ構成点は低くなる。良い構成は、手具を用いての要素の多様性と、徒手要素の多様性、及び組み合わせがバラエティに富み、審判員に深い印象を与えるものでなければならないという研究もある（関田1994）。更に、空間床面を多く利用し、高低の変化に富んだ空間構成が理想的であり、スピードの変化やその中で手具の熟練した技術と、それに伴った動きに流れがあることが重要とされている（高橋1981）。

次に、新体操と種目は異なるが、子どもを対象としたクラブやスポーツ教室に関する先行研究に着目した場合、西野らは親がどのような動機でラグビースクールに入校させたか、またどのような効果があったのかを考察している。加入動機は、スポーツマンが持ち合わせている身体的資質や特性を獲得させたいという親の期待であり、必ずしも子どもの意志ではないことが明らかにされている（西野他1978）。また、丸山は幼児教室を事例に幼児のスポーツ教室への参加は親が一種のお稽古事として子どもに勧めており、また、過去にスポーツを行っていた親が圧倒的に多いということを指摘している。またスポーツ教室参加は、幼児に対する教育熱の高さと、地域の子どもを取り巻く物理的・社会的環境の要因が関連していると結論づけている（丸山1982）。更に、前述の調査データを「スポーツへの社会化」の枠組みから分析し、家庭内でのスポーツ観戦や話題が多く、また子ども

のスポーツ参加を期待し奨励するなど、両親のスポーツ関心が高い場合子どものスポーツ関心と参加は高くなると分析している（丸山1984）。

そこで本研究では、新体操競技の底辺に位置づくジュニアクラブを対象とし、どのような動機や期待を持って加入し、期待された効果がどのように評価されているのかということ、クラブ会員の親の意識から把握することにした。このように、本研究は、新体操ジュニアクラブの健全な発展とジュニア育成の今後の在り方を検討する上での基礎的な資料を得ることを主たる目的とした。

II. 研究方法

1) 調査対象クラブ

本研究の目的から、競技会に向けて練習している選手コース、競技会に出る為の基礎技術を練習をしている育成コース、競技ではなく発表会を目的とした一般コースという複数のねらいを持つクラブを対象とし、5クラブを抽出した。

- ・宮城県ジュニア新体操クラブ 2クラブ（A/B）
- ・愛知県ジュニア新体操クラブ 1クラブ（C）
- ・宮崎県ジュニア新体操クラブ 2クラブ（D/E）

2) 調査時期

2002年8月3日から9月10日の38日間

3) 調査方法と回収結果

先行研究並びに事前調査で得られた結果等を検討した上でアンケート用紙を作成し、郵送法並びに留置法を用いて調査を実施した。回収結果は、表1の通りである。

表1 調査の概要

クラブの所在地	クラブ	配布数	回収数	回収率
宮城県	Aクラブ	100部	89部	89%
	Bクラブ	80部	71部	88%
愛知県	Cクラブ	85部	73部	85%
宮崎県	Dクラブ	20部	17部	85%
	Eクラブ	30部	26部	86%
合計	5クラブ	315部	276部	87%

なお、有効回答数は276部、有効回答率は100%であった。

4) 調査内容

対象となる子どもの年齢、所属コース等について6項目、母親の運動経験や現在通っているクラブに対する意見について6項目、加入動機58項目、効果意識59項目を設定し、質問紙を作成した。なお、ジュニア新体操クラブ、そして新体操そのものに対する考えについても、自由回答により記入してもらった。

5) 分析方法

調査データの分析に関しては、はじめに単純集計結果からサンプルの特性を捉えた。次に年齢層とのクロス集計を実施しカイ2乗検定による有意差検定を実施した。さらに、加入動機並びに効果意識の構造を把握するために、それぞれ因子分析を実施すると共に、得られた因子得点により、各属性間の比較及び加入動機と効果意識の対応関係を分析した。

III. 結果と考察

1) 調査結果の概要

本研究が対象とした5クラブでは、約50%が幼稚園児と小学校低学年であり、年齢の低い子どもの割合が高かった。それに連動し、活動年数が短く一般コースに所属する割合が高いという傾向がみられた。また、新体操以外のスポーツ実施については、全体の3割が実施していることがわかった。親の属性は、子どもの年齢から30歳代が6割を占め、全体の7割が学生時代にスポーツやダンスを実施していた。新体操を実施していた親は1割に満たなかった。その主な理由は、新体操が当時一般的なスポーツとして認識されていなかったことに起因しているものと考えられる。なお、子どもを新体操ジュニアクラブへ加入させることに対しては、ほぼ全家庭が肯定的に捉えていたことが明らかとなった。

表2に示されている様に加入動機58項目中、「最も当てはまる」の高い項目は、「子どもが入りたいというから」(56.2%)という項目であった。また、「最も当てはまる」もしくは「当てはまる」と答えた割合を合わせてみると、「子どもが入りたいというから」(92.1%)という項目が、最も高い数値を示した。このことから、子どもの意志が加入の動機になっている事がわかる。また、「集中力のある子どもになってほしいから」(91.6%)「礼儀作法の良い子どもになってほしいから」(89.9%)や「活発で明るい子どもになってほしいから」(89.9%)「意欲のある子どもになってほしいから」(88.1%)「忍耐力のある子どもになってほしいから」(87.7%)などが上位を占めた。これらの結果から、全体的な傾向として、親は子どもの性格形成的な部分を期待してクラブに加入させていることがわかった。

次に表3に示されている効果意識では、加入したことにより新体操が上手になったことと、子どもの体力面や健康面にプラスの変化(効果)があったと感じているようである。また、「最も当てはまる」もしくは「当てはまる」と答えた割合を合わせてみると、比率の高い項目は「友達が増えてきた」(73.6%)や「協調性が出てきた」(72.5%)などであった。集団行動的な部分が多いこともあり、交友関係の深まりや集団行動への適応力なども身につけてきたと感じていることがわかった。

表2 加入動機と年齢層の関係

項目	最も当てはまる	当てはまる	当てはまらない	全く当てはまらない	年齢層との関係
1. 子どもが入りたいというから	56.2	36.9	5.1	2.9	***
2. 勧められたので仕方なく	4.3	3.3	1.8	85.6	ns
3. 親のものが多く居るから	7.4	17.9	12.3	64.9	ns
4. クラブに居るといいから	16.7	38.4	4.7	40.2	***
5. クラブの指導者の声に、子どもの学校の先生がいるので	1.8	1.8	0.0	96.4	ns
6. クラブに子どもの友達が入っていたので	14.3	30.9	7.2	47.4	***
7. クラブには同じ年頃の子どもが大勢いるので	7.2	40.1	23.9	39.6	***
8. 子どもに自由な時間が多いので	1.7	27.5	31.5	39.9	ns
9. なるの先生に	2.2	12.5	24.1	71.7	ns
10. 学校の友達と遊ぶのが好きだから	11.2	46.7	11.0	21.0	***
11. 学校の先生はスポーツが好きだから	1.8	10.9	38.6	58.7	ns
12. 学校の中に新体操指導者がいるから	6.2	5.1	3.3	85.5	ns
13. テレビ等を見て新体操の音に夢中になって新体操指導者があったから	1.8	13.8	19.8	74.5	ns
14. 子どもがスポーツ好きだから	18.2	49.2	18.8	12.7	***
15. 子どもがスポーツ好きだから	2.9	1.7	9.1	83.3	ns
16. 子どもが新体操が好きだから	17.0	40.3	21.0	12.7	***
17. 身体が柔らかいから	15.6	33.7	39.0	31.7	***
18. クラブの指導者が気に入っているから	8.3	48.2	31.9	11.5	***
19. 子どもの心を落ち着かせるから	21.4	68.0	11.6	5.1	***
20. 安全性・健康法について配慮がなされているから	9.1	55.1	24.6	10.9	***
21. クラブの指導者が熱心だから	19.2	58.3	11.2	11.2	***
22. 新体操指導者が女性らしいスポーツだから	19.0	40.4	28.3	13.4	**
23. クラブは社会的な場の中で開かれているから	14.1	60.0	15.9	14.9	***
24. クラブの設備が良いから	18.5	47.8	20.7	13.0	***
25. クラブでは子どもが友達と遊ぶから	6.2	53.3	45.7	14.9	***
26. 練習中に自覚のある子どもだから	4.5	43.1	28.3	24.1	ns
27. 練習中に自覚のない子どもだから	3.3	33.2	30.7	68.6	ns
28. 体力面が伸びている子どもだから	4.3	27.2	43.5	25.0	***
29. 体力面が伸びていない子どもだから	0.7	12.0	26.4	60.9	***
30. 運動能力が伸びている子どもだから	5.1	27.5	45.7	21.7	ns
31. 運動能力が伸びていない子どもだから	0.7	9.7	31.0	58.6	ns
32. 学校の授業の成績が伸びている子どもだから	4.7	28.0	48.0	29.9	***
33. 学校の授業の成績が伸びていない子どもだから	0.7	0.7	28.1	70.2	*
34. 記憶を解凍したいから	0.4	3.6	8.3	87.7	*
35. 新体操の体の練習だから	1.7	30.1	36.5	29.7	***
36. 身体が柔らかい子どもだから	8.7	46.6	38.6	11.1	***
37. 新体操のイメージの子どもだから	11.8	29.5	57.2	2.8	***
38. 意志の強い「頑張る」子どもだから	15.2	34.6	34.1	16.9	***
39. 積極的・率先性のある子どもだから	4.3	20.7	52.5	22.5	***
40. 内気な子どもだから	4.0	19.6	29.0	47.5	***
41. ひとりで遊ぶのが好きな子どもだから	4.7	36.2	37.0	22.1	***
42. 得意なスポーツが新体操だから	4.7	18.8	33.3	60.1	ns
43. 得意なスポーツの選手になりたいから	4.7	18.4	46.1	30.1	***
44. 得意なスポーツを習得したから	0.0	15.2	37.3	47.5	ns
45. 得意なスポーツの練習ができる人間になってほしいから	13.4	60.9	15.2	10.5	***
46. 得意なスポーツの選手になってほしいから	22.3	63.9	9.1	8.4	***
47. 得意なスポーツの選手になってほしいから	29.0	55.1	12.7	2.9	***
48. 運動能力が伸びた子どもになってほしいから	14.9	64.7	32.8	7.6	***
49. 忍耐力のある子どもになってほしいから	23.2	64.5	8.2	6.2	*
50. 意欲のある子どもになってほしいから	26.1	62.0	5.1	6.8	*
51. 活発で明るい子どもになってほしいから	27.2	62.7	5.4	4.7	*
52. 意欲のある子どもになってほしいから	23.6	61.6	9.8	5.1	***
53. 責任感の強い子どもになってほしいから	23.2	60.5	13.1	6.2	*
54. 礼儀作法の良い子どもになってほしいから	28.3	61.6	4.7	5.4	*
55. 集中力のある子どもになってほしいから	29.3	63.3	4.0	4.3	*
56. 学校の授業の成績が伸びている子どもになってほしいから	17.0	61.9	9.1	8.1	***
57. 友達と遊ぶのが好きになってほしいから	13.0	59.9	21.4	8.7	***
58. 積極的な子どもになってほしいから	30.3	66.0	9.1	5.1	***

* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

表3 効果意識と年齢層との関係

項目	最も当てはまる	当てはまる	当てはまらない	全く当てはまらない	年齢層との関係
1. 食べ物の好き嫌いがなくなってきた	6.9	25.4	46.7	21.0	ns
2. 食欲が伸びた	13.4	40.9	30.1	15.5	***
3. 食べ物の好き嫌いを直す食べ方ようになった	6.3	31.9	38.4	19.1	***
4. 食事の時に口を拭くようになった	3.6	22.8	46.4	27.2	ns
5. あまり疲れないようになった	12.0	50.1	24.3	1.7	***
6. 睡眠・朝起きやすくなった	9.1	41.7	35.9	13.4	***
7. 腹痛・下痢を起こさなくなった	3.0	20.1	37.7	39.2	ns
8. 腹痛・下痢の原因がなくなった	5.4	43.1	32.3	18.1	ns
9. 風邪をひかなくなった	12.3	48.9	32.8	6.5	ns
10. 顔色が良くなった	9.1	41.3	34.1	11.6	ns
11. 寝つきが良くなった	16.7	46.0	26.1	10.9	***
12. 呼吸器感染症がなくなった	13.4	41.3	36.2	9.1	***
13. 咳がなくなった	20.8	56.0	13.4	1.8	***
14. 通年で声で喋るようになった	13.0	42.4	32.6	12.0	***
15. 通年でスポーツをするようになった	17.0	32.8	24.1	8.3	***
16. 新体操が上手になった	23.6	58.2	17.8	2.5	***
17. 新体操を習得しやすくなった	5.8	46.7	41.3	6.2	ns
18. 新体操のイメージが上手になった	14.9	52.7	37.7	6.2	ns
19. 運動能力が伸びやすくなった	7.6	51.8	36.0	2.5	ns
20. わがままなまなざしなくなり、自然心ができた	2.9	24.1	55.1	7.6	ns
21. 「頑張る」ことがよく出来るようになった	2.2	49.6	43.8	5.4	ns
22. 意欲が増えた	12.0	61.6	22.9	4.0	*
23. 意欲性が出てきた	5.1	67.4	24.3	3.3	ns
24. 忍耐力が増えた	10.8	55.4	30.1	3.6	*
25. 意欲性が出てきた	5.1	61.2	31.2	2.5	ns
26. 活発で明るい子供になってきた	12.0	60.1	23.9	4.0	***
27. 得意なスポーツをするようになった	13.4	32.8	29.7	4.3	ns
28. 得意なスポーツの選手になった	12.6	64.0	27.2	3.3	ns
29. 得意なスポーツの選手になった	6.2	52.9	36.2	1.7	ns
30. 女性らしさができた	1.8	26.8	53.3	18.1	ns
31. 物を大切にできるようになった	4.0	42.1	43.5	9.4	ns
32. 礼儀作法が身に付いた	4.9	38.7	31.5	25.4	*
33. ルールや約束を守るようになった	14.5	37.6	28.4	2.9	ns
34. 自分の行動に責任を持つようになった	6.9	52.9	34.9	4.3	ns
35. 自分の役割を必ず果たすようになった	10.5	48.3	38.0	6.2	ns
36. 知りたことや疑問に思い、質問しやすくなった	5.8	14.6	42.0	37.6	***
37. 活動中に疑問や不安を感じることがなくなった	1.1	32.6	49.6	16.7	***
38. 疑問や不安を感じることがなくなった	25.5	43.5	14.6	9.1	ns
39. クラブでの先輩や後輩と遊ぶのが好きになった	10.8	51.1	28.3	9.1	ns
40. クラブでの先輩や後輩と遊ぶのが好きになった	13.0	51.1	31.9	4.0	*
41. 友達の多いグループになった	3.8	43.8	43.1	7.3	*
42. 仲間意識が強くなくなった	12.2	17.4	42.4	36.0	*
43. 仲間意識が強くなくなった	11.7	47.8	27.8	7.8	ns
44. 前より学校の勉強をするようになった	3.6	36.2	47.5	12.7	ns
45. 部活の成績が良くなった	7.2	37.7	41.7	13.1	ns
46. 部活以外の成績も良くなった	5.8	38.8	41.9	10.5	ns
47. 先生から褒められるようになった	11.2	38.0	40.9	9.9	ns
48. 褒められるようになった	10.9	50.0	26.4	12.7	ns
49. 褒められるようになった	6.9	29.7	42.4	21.0	ns
50. 先生の注意を受けるようになった	13.0	50.4	34.3	7.2	ns
51. 先生の注意を受けるようになった	12.0	57.2	38.1	6.4	ns
52. 先生の注意を受けるようになった	4.7	36.2	27.7	17.4	ns
53. 忘れ物をすることがなくなってきた	6.8	46.0	40.9	6.5	ns
54. 忘れ物の少ない子供になってきた	0.0	8.7	34.4	56.9	***
55. 学校の勉強があまりなくなってきた	1.1	1.0	26.6	64.1	***
56. 学校で勉強が嫌いになった	10.8	10.5	18.5	71.0	***
57. 勉強が嫌いになった	1.1	11.4	24.4	62.7	***
58. 友達と遊ぶのが好きになった	1.1	3.3	22.5	73.2	***
59. 勉強が嫌いになった	0.0	0.4	19.2	80.1	***

* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

2) 加入動機の構造と属性との関連

加入動機の因子分析を試みた結果(表4)、「性格形成因子」、「素質伸長因子」、「成績向上因子」、「クラブ環境因子」、「スポーツ嫌い克服因子」という5因子が抽出された。なお、5因子の累積寄与率は43.8%と高い値ではないため、加入動機に対する他の因子が存在していることが予測される。抽出された5因子の中では、「性格形成因子」の寄与率が高く、因子を構成する説明変数の因子負荷量も全体的に高い値を示した。

表4 加入動機の因子分析結果

加入動機因子	バリマックス回転後の因子負荷量				
	F1	F2	F3	F4	F5
〔性格形成〕					
責任感の強い子どもになってほしいから	.893				
適応性のある子どもになってほしいから	.874				
礼儀作法の良い子どもになってほしいから	.849				
年下の面倒を見る子どもになってほしいから	.827				
活発で明るい子どもになってほしいから	.806				
集中力のある子どもになってほしいから	.791				
忍耐力のある子どもになってほしいから	.790				
個性豊かな子どもになってほしいから	.761				
意欲のある子どもになってほしいから	.755				
謙虚な子どもになってほしいから	.732				
協調性のある子どもになってほしいから	.631				
姿勢の良い子どもになってほしいから	.586				
〔素質伸長〕					
運動能力の優れている子どもだから		.740			
学校で体育の成績が優れている子どもだから		.720			
体力面が優れている子どもだから		.681			
健康面に自信がある子どもだから		.639			
意志の強い「頑張り屋」の子どもだから		.620			
新体機向けの体型だから		.611			
積極的・率先性のある子どもだから		.601			
将来新体機選手にしたいから		.598			
活発で明るい子どもだから		.595			
子どもがスポーツ好きだから		.582			
身体が柔らかいから		.578			
〔成績向上〕					
運動能力が劣っている子どもだから			.868		
体力面が劣っている子どもだから			.793		
学校で体育の成績が劣っている子どもだから			.666		
体力面に自信の無い子どもだから			.603		
〔クラブ環境〕					
クラブに同じ年頃の子が大勢いるので				.644	
クラブの参加料が安いから				.578	
クラブに子どもの友達が入ったので				.499	
クラブでは子どもが友達を作りやすいから				.474	
〔スポーツ嫌い克服〕					
子どもがスポーツ嫌いだから					.543
家族の音がスポーツ好きだから					.511
勧誘されたので仕方なく					.503
寄与率	15.61	11.79	6.38	5.10	4.90
累積寄与率	15.61	27.40	33.78	38.88	43.78

さらに、各因子と「年齢層」「活動歴」「所属コース」との比較を因子得点の平均値によって分析した(表5.6.7)。その結果、性格形成因子とクラブ環境因子が年齢層及び所属コースと有意に関連することがわかった。性格形成動機や同年齢の子どもがいるからなどのクラブ環境動機は、いずれも幼稚園児などの低年齢層及び一般コースで高い値となり、これらの子どもの親が強く期待していることがわかる。これらの結果から、加入動機としてジュニアクラブに求められているのは、トップアスリート育成よりも性格形成としての礼儀作法や躰、楽しくクラブに通うことができるといった指導方針の方が強いということが明らかとなった。

表5 年齢層と性格形成動機の関係

年齢層	平均値	標準偏差
幼稚園児	0.448	0.8808
小低学年	0.121	0.8878
小高学年	-0.203	0.9735
中学生	-0.255	1.1120

※P<0.05 ※※P<0.01 ※※※P<0.001

表6 年齢層とクラブ環境動機の関係

年齢層	平均値	標準偏差
幼稚園児	0.498	0.7630
小低学年	0.177	0.8280
小高学年	-0.050	0.8180
中学生	-0.728	0.8425

※P<0.05 ※※P<0.01 ※※※P<0.001

表7 コースとクラブ環境動機の関係

コース	平均値	標準偏差
選手コース	-0.534	0.9623
育成コース	-0.102	0.6797
一般コース	0.229	0.8189

※P<0.05 ※※※P<0.001

3) 効果意識の構造と属性との関連

効果意識の因子分析を試みた結果(表8)、「性格形成因子」、「健康増進因子」、「成績向上因子」、「生活波及因子」、「逆効果因子」という5因子が抽出された。なお、加入動機と同様に、5因子の累積寄与率は45.9%と低いことから、効果意識に対する他の因子が存在することが予測される。ここでも5因子の中で寄与率が最も高かったのは性格形成因子という結果が得られた。

表 8 効果意識の因子分析結果

効果因子	バリマックス回転後の因子負荷量				
	F1	F2	F3	F4	F5
【性格形成】					
自分の行動に責任を持つようになってきた	.691				
ルールや決まりを守るようになってきた	.687				
友達のことを考えるようになってきた	.683				
適応性が出てきた	.682				
協調性が出てきた	.644				
自分の役割を必ず果たすようになってきた	.631				
わがままな点が無くなり、自削心が出てきた	.623				
粘り強く努力するようになってきた	.618				
面倒見が良くなってきた	.601				
「願う」ことがよくできるようになってきた	.597				
先生の注意を聞くようになってきた	.592				
リーダー等に選ばれるようになってきた	.568				
友達が増えてきた	.563				
活発で明るい子どもになってきた	.561				
何でもしてみようとする意欲が出てきた	.542				
【健康増進】					
寝つきが良くなってきた		.694			
道んで戸外で遊ぶようになってきた		.693			
激熱・頭痛を出すようなことがなくなってきた		.689			
風邪をひかなくなってきた		.634			
貧血・めまいを起こさなくなってきた		.628			
呼吸器関係が丈夫になってきた		.598			
腹痛・下痢を起こさなくなってきた		.539			
顔色が良くなってきた		.531			
道んでスポーツをするようになってきた		.531			
あまり医者にかかるなくなってきた		.516			
【成績向上】					
体育以外の成績も良くなってきた			.731		
体育の成績が良くなってきた			.666		
先生から誉められるようになってきた			.616		
宿題を忘れずにできるようになってきた			.566		
前より学校の勉強をするようになってきた			.514		
運動能力がかなり優れてきた			.500		
他のスポーツが上手になってきた			.471		
【生活改良】					
食べ物の好き嫌いが無くなってきた			.597		
嫌いな物でも注意すれば食べるようになってきた			.572		
両親や年長者の言うことを聞くようになってきた			.532		
食事の前に開食しないようになってきた			.509		
女性らしさが出てきた			.502		
【逆効果】					
朝寝坊をしやすくなってきた				.638	
学校の勉強をあまりしなくなってきた				.620	
暴飲暴食をするようになってきた				.574	
友達に偏りができてきた				.506	
平均率	15.36	11.20	7.89	6.85	4.55
累積平均率	15.36	26.56	34.45	41.29	45.85

次に各因子と「年齢層」「活動歴」「所属コース」との比較を因子得点の平均値によって分析した(表 9,10,11)。その結果、性格形成効果の影響が強く表れたのは年齢が高く活動年数が長いクラブ員であることがわかった。活動年数が長い子どもほど指導者の指導という介入がポジティブな効果子ども達に及ぼすという結果となった。

表 9 年齢層と性格形成効果の関係

年齢層	平均値	標準偏差
幼稚園児	-0.263	0.7208
小低学年	-0.176	0.7899
小高学年	0.184	1.1094
中学生	0.273	0.9741

※P<0.05 ※※P<0.01

表 10 活動歴と性格形成効果の関係

活動歴	平均値	標準偏差
1年未満	-0.411	0.7138
1~2年	-0.100	0.7242
3年以上	0.354	1.0486

※P<0.05 ※※※P<0.001

表 11 コースと性格形成効果の関係

コース	平均値	標準偏差
選手コース	0.540	1.2300
育成コース	0.052	0.7199
一般コース	-0.219	0.7710

※P<0.05 ※※※P<0.001

4) 加入動機と効果意識との関係

クラブへの加入動機に対し、それに見合う効果が得られることが望ましいことは論を持たない。そこで、加入動機因子と効果意識因子との関係を分析した。具体的には、各動機因子ごとに因子得点の+1/2 シグマ以上の者を各動機の高位群、±1/2 シグマの者を中位群、-1/2 シグマ以下の者を低位群に分け、各群の効果意識因子の平均値を比較した。ここでは、抽出された動機及び効果因子の間に直接的関係のある「性格形成」及び「成績向上」についての対応関係を分析した。

性格形成動機と性格形成の効果意識との関係(表 12)では、高位群になるに伴い効果に対する意識が強く表れた。責任感や適応性のある子どもになってほしいと強く願って加入させた群ほど、期待する効果があったと評価していることが平均値に示されている。前節までの分析では、例えば年齢層でみると幼稚園児など年少ほど加入動機は強く、効果は逆に中学生など年長ほど表れている傾向がみられたが、ここでは動機と効果の対応関係がみられたことになる。ジュニア新体操教室に通うきっかけとなった動機が、通うことにより効果に繋がっている点で、望ましい結果が得られたといえることができる。

表 12 性格形成動機と性格形成効果の関係

性格形成動機	平均値	標準偏差
低位群	-0.270	1.2075
中位群	-0.005	0.8349
高位群	0.228	0.9327

※P<0.05

成績向上動機と成績向上効果との関係(表 13)では、統計的に有意な差はみられなかったが、高位群に高い値が示された。この結果は、「運動能力が劣っているから」や「体育の成績が劣っているから」という子どもに対し、親(保護者)が体育の成績向上を望みクラブに通わせた結果、成績向上効果がみられたことを意味し、望ましい結果であるといえる。

表 13 成績向上動機と成績向上効果の関係

成績向上動機	平均値	標準偏差
低位群	-0.107	1.0587
中位群	0.001	0.8516
高位群	0.158	0.7461

IV. 今後の課題と展望

本研究を進めた結果、ジュニアクラブに対する親の意識や加入による効果の意識などが明らかとなった。しかしながら、それらは親の意識であり、あくまでも効果に対する意識で本当の効果とはいえない。同様に効果そのものものがクラブへの加入に起因しているとも断言できない。それゆえに、今後の新体操のさらなる発展や競技力向上に貢献するためにも、今回の研究を基にジュニアクラブの底辺拡大やジュニア選手の強化体制などについて、新たな視点から研究を進めていきたいと考えている。

<参考文献>

- 1) 長谷川洋子「新体操ジュニア選手の演技構成に関する一考察」東京女子体育大学紀要 第 22 号, 1987, pp18-25.
- 2) 小林由美子「新体操における団体競技の演技分析」東京女子体育大学紀要 第 26 号, 1991, pp25-32.
- 3) 小林由美子「新体操個人演技の構成について」東京女子体育大学紀要 第 27 号, 1992, pp42-54.
- 由美子「第 16 回世界新体操選手権大会における団体演技の分析」東京女子体育大学紀要 第 28 号, 1993, pp13-22.
- 5) 丸山富雄「幼児のスポーツ参加と両親の影響 (第 1 報)」仙台大学紀要 第 14 号, 1982, pp121-132.
- 6) 丸山富雄「幼児のスポーツ参加と両親の影響 (第 2 報)」仙台大学紀要 第 16 号, 1984, pp19-26.
- 野泰広他「ラグビー・スクールの入校動機と効果意識に関する研究」体育学研究 第 23 巻 第 3 号, 1978, pp263-274.
- 8) 関田史保子「新体操個人競技における演技内容の研究」東京女子体育大学紀要 第 26 号, 1991, pp17-24.
- 9) 関田史保子「新体操個人競技における演技構成に関する一考察」東京女子体育大学紀要 第 29 号, 1994, pp15-22.
- 10) 高橋衣代「団体演技の空間構成と隊形変化に関する一考察 (その 1)」東京女子体育大学紀要 第 13 号, 1978, pp27-38.
- 11) 高橋衣代「団体演技の空間構成と隊形変化に関する一考察 (その 2)」東京女子体育大学紀要 第 15 号, 1980, pp29-41.
- 12) 高橋衣代「団体演技の空間構成と隊形変化に関する一考察 (その 3)」東京女子体育大学紀要 第 16 号, 1981, pp31-44.
- 13) 高橋衣代「新体操の団体演技における徒手要素と手具要素に関する研究」東京女子体育大学紀要 第 23 号, 1988, pp17-24.
- 14) 高橋衣代「新体操ジュニア競技における演技構成についての研究」東京女子体育大学紀要 第 28 号, 1993, pp26-34.
- 15) 高橋衣代「新体操シニア競技における団体の演技構成に関する研究」東京女子体育大学紀要 第 29 号, 1994, p 23-31.
- 16) 津城由美子「新体操ワコールカップ東京国際競技会における団体演技分析」東京女子体育大学紀要 第 29 号, 1994, pp32-39.
- 17) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No1, 1995.
- 18) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No2, 1996.
- 19) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No3, 1997.
- 20) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No4, 1998.
- 21) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No5, 1998.
- 22) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No6, 1999.
- 23) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No7, 1999.
- 24) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No8, 2000.
- 25) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No9, 2000.
- 26) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No10, 2001.
- 27) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No11, 2001.
- 28) 財団法人日本体操協会 新体操委員会研究部 「新体操情報誌」No12, 2002.